

# 石碑は誰に何を 伝えているのか？

上野三碑の中に息づく  
群馬の先進性と価値観

2017年にユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑。現在の高崎市に残る3つの石碑は我々に何を伝えているのか。「古代の日本では石碑を造るという文化はありませんでした。そのため現存するのは全国でたったの18例。そのうちの3つが群馬県の狭い地域に固まってあるんですよ」と群馬地域文化振興会常務理事の松田猛さん。長利僧が亡き母親のために建てた山上碑、新しい郡がつくられたことを記録した多胡碑、仏教のもとに団結する一族の絆を刻んだ金井沢碑の「上野三碑」は、当時の先端技術をいち早く採り入れ、石に文字を刻んで残すという高い意識のもとに造られたのだという。

それぞれ建立の目的や碑文の内容は異なる上野三碑だが、そこに刻まれた文字を検証すると、中央集権国家が整備されていく中での地方豪族との関わり、また仏教や漢字といった渡来文化が人々に浸透していく様子なども知ることができる。そのような日本と東アジアの文化交流、当時の家族制度などを今に伝える貴重な遺産としての価値が評価され「世界の記憶」に登録された。そして「その頃、法隆寺の食封が山部郷（現在の高崎市山名町周辺）にあったことや、多胡碑に刻まれた「羊」の文字をもとに生まれた、羊太夫という人物が毎日奈良の朝廷に通っていたという伝説などからも、この地が畿内と密接な関係をもっていたことがわかります」と松田さん。金井沢碑の文字に県内では初めて「群馬」という地名が登場するが、当時から群馬は中央の政治や文化を把握しつつ、進取の気風がみなぎる土地であったと考えられる。静かに佇む上野三碑の中には、群馬のルーツが息づいている。

## 山上碑

●MAP C-1

### 僧が母を想って 建てた国内最古の石碑

681年に建てられた、完全な形で残るものには国内最古の石碑。「放光寺」の僧が、母「黒亮刀自（くろめとじ）」を供養するとともに、有力豪族の子孫であり、大寺院の僧でもある自らの存在を後世に伝えるために碑を建てたと考えられている。上から順に読むことができる漢字の表記法が確認できるとも貴重な史料だ。特別史跡。

高崎市山名町字山神谷2104  
[田]あり(大型不可)



前橋市の山王廃寺跡(MAP B-1)で出土した「放光寺」と刻まれた瓦から研究が深まり、山王廃寺が放光寺だと考えられている。資料は前橋市総社歴史資料館で展示されている。

## 語り部



群馬地域文化  
振興会  
松田 猛さん

文献史料と考古学を融合させるスタイルで古代史に挑む研究者。上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録にも尽力した。

## 謎解きキーワード

- ① 数少ない古代の石碑
- ② 東アジアとの交流
- ③ 先進性の証

## ここも行ってみよう



### 〈前橋市〉前橋市総社歴史資料館

総社古墳群、山王廃寺などに関する貴重な資料を展示。CG復元した山王廃寺の中をめぐる「ワークスルー」などの閲覧もできる。

前橋市総社町総社1584-1  
☎027-212-2558 開9時~16時  
閉月曜(祝日は開館、翌日休)、年末年始 [田]78台

●MAP B-1

## 金井沢碑

●MAP C-1

### 一族の繁栄を祈る石碑 群馬が登場する最古の史料

726年に三家氏(みやけし)を名乗る豪族が、先祖の供養と一族の繁栄を祈って建てた石碑。碑文には三家氏を中心とした9人の名前が記されており、女性が結婚後も実家の氏の名で呼ばれていたことなどもわかる。また、「群馬」という地名が出てくる史料としては県内で最古のもの。群馬のルーツを知るうえで非常に貴重な史料でもある。特別史跡。

高崎市山名町金井沢2334  
[田]あり



## 多胡碑

●MAP C-1

### 多胡郡の設置の記念碑 書の名品として知られる

711年多胡郡が設置されたことを記念して建てられた石碑。多胡郡とは現在の高崎市内八幡地区から吉井地区一帯とみられる。古墳時代のヤマト王権の直轄地を含み、窯業、布生産などが行われる先進的な地域だった。18世紀に朝鮮通信使が持ち帰った拓本は、後に中国に渡り、その評価が日本の書家に影響を与えた。日本三古碑のひとつ。特別史跡。

高崎市吉井町池1095  
多胡碑記念館 ☎027-387-4928  
開9時30分~17時(最終入館16時30分)  
閉月曜(祝日は開館、翌日休)、年末年始  
[田]あり



多胡碑記念館では三碑のレプリカや、関連資料を見ることが出来る。

「上野三碑」問い合わせ  
☎027-321-1292(高崎市教育委員会文化財保護課)  
写真提供: 高崎市教育委員会